

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372800189		
法人名	有限会社 フォーユー		
事業所名	グループホーム さくらの家		
所在地	岡山県小田郡矢掛町矢掛2532-1		
自己評価作成日	平成22年2月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372800189&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関との提携により安心した生活と快適な生活が提供できるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接した医療機関による24時間体制での医療支援が可能で、緊急時には迅速な対応ができ、家族の安心が得られている。看護師が配置され、医療物品の常備も万全である。施設は約2000平方メートルの敷地を有し、芝の庭園と約60坪の菜園を利用して農作業を共に行うことにより、行動障害の緩和へと繋げている。また、音楽セラピーの一環として、共用空間にオルゴールのメロディを流し、利用者の精神安定をはかっている。施設の名称『さくら』は矢掛町の町花であり、ユニットの名称にも町鳥『うぐいす』、矢掛で有名な『ほたる』を使用するなど、事業所自体が地域の一員であることを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議やユニット会議を定期的に行いミーティングの機会をもうけている。	代表者は、事業所の柱となる理念と共に、人として生きていくうえでの基本は感謝の心を持つことだとの考えから、全職員への意識付けをおこなっている。	理念が掲示されていますが、字が小さくて読みにくいため、誰にでも自然と目に入ってくるよう工夫されてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夜市に参加し交流を図ったり、近くのスーパーに利用者と一緒に買い物に出掛け挨拶をしたり会話している。	今までは、地域の方に事業所へ来ていただき交流を深めるよう支援していたが、今後は利用者と共に地域へ出かけていくことも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問や町内行事への参加などで、交流する機会を持ち、地域の方々への理解を深めている。また町内の清掃活動にも参加する予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の現状報告し参加メンバーからの質問、意見、要望を受けそこで出た意見をもとめてサービス向上につなげている。	定期的に開催される運営推進会議は、利用者・家族・町職員・地域包括支援センター職員・地域住民代表者の参加があり、出席いただいた住職(利用者の家族)によって、このたび彼岸供養をしていただける運びとなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度は必ず介護保険課に連絡したり、書類を提出した時などに情報交換を行っている。	矢掛町包括支援センター主催の浅口市・里庄町・矢掛町合同研修会において、「笑顔で過ごしてもらいたい日常生活」というテーマで、さくらの家の事例研究発表をおこなった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を結成し、委員会による勉強会を行っています。現在拘束している人はおらず、施錠も常に出入りが自由な状態にしています。	特に次の項目において、拘束しない為の環境整備の見直しをおこなっている。1. 本人の動線に障害物があれば取り除く。2. 見守りの強化とスタッフの声掛けで居場所を把握する。3. ベッドを低くして柵は用いず床(ベッド横)に厚いマットを敷く。	H21年度の目標として「拘束ゼロ作戦の実施(身体・言葉・薬)、危機管理の徹底、認知症についての知識・理解を深める」という項目に取り組まれています。今後とも継続していかれることを望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で外部から講師を招き、スタッフが高齢者虐待防止について理解を深め、日々実践できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修へ参加し制度に関する理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にすべての項目について十分な説明を行っている。不安点や疑問点があれば説明を行い理解していただいた上で契約をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族の訪問時には、スタッフから状況を説明したり要望などがあればスタッフ全員にユニット会議で話し合い要望にこたえられるように努めています。	年度初めに家族会を開き、前年度の事業報告を行い、今年度の事業計画を説明し質疑応答している。面会時に家族から出された意見・要望を記録し、月一度ユニット毎に行われる会議で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図って、ユニット会議、管理者会議などで随時意見や要望を聞き反映させている。	勉強委員・拘束委員・レク委員・消防委員・ケアプランの五つの委員会があり、職員はいずれかに所属し自己研鑽し、よりよいサービスが提供できるよう勉強している。	今後も職員と共によりよいホームにしていられるよう期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を行い、スタッフの意識改革ができるように指導、援助に努めている。職員が安心して働くことができる職場の環境条件の整理に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の能力及び興味ある分野での研修機会を設け、事業所内外の研修に参加し、報告書の提出をしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や町主催の研修会に参加し、他事行所との情報交換やネットワークづくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に死活歴、心身状況、家族状況等様々なことを把握しスタッフから本人に安心感を持っていただけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から要望、困っていることをスタッフが理解できるように事前に面談して関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の要望を確認、把握しその人に合った必要なサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から入所者の方と一緒にできること(掃除、洗濯物たたみ、買い物など)は雑談したりお茶を飲みながら一緒に生活している雰囲気づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には居室にてお茶接待しながら現状の報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人などの面会もできている。亜族の協力もあり本人の行きたいところなどへ出掛けられるような支援も行っている。	散歩や慰問を通して地域とのふれあいや交流を大切にしている。スーパーなどで顔なじみになった近所の人が訪ねて来たり、帰宅願望のある利用者にはドライブがてら家に立ち寄り、家族に手紙を出したりする支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し、その人に合った支援を行い席替えなどして孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談に応じ、他施設への面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の訴えに傾聴し、できるだけ要望に答えられるように努めている。	スタッフの基本姿勢として「笑顔を忘れない・挨拶をする・いつも謙虚に・ご利用者さまを最優先とする・自己研鑽」を徹底し、利用者一人ひとりに足を止めて顔を見て話をきき、笑顔で対応し、安心安全に生活できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を聞き、スタッフが把握できるようにプランに盛り込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録に記入し、特変があれば赤・青ペンで記載しスタッフが把握できるようにしている。水分量と排便チェックは必要に応じ個別対応としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの意見を参考にしうえて、ケアマネのもとスタッフとモニタリングを行い本人の状態に応じた介護計画を作成している。	週一回ユニット毎におこなわれるカンファレンスで、ケアマネは司会に徹し、職員に意見をアウトし、利用者一人ひとりの状況を話し合っって介護計画を立てている。	日々の実践記録に要点がまとめて記録されていれば再評価し易くなると思います。更なる工夫を続けていかれることを望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記載しているがプランにそった記録はスタッフ全員ができていないが、介護計画の見直しには活かしていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅療養管理指導の話をすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会に参加された民生委員の方や役場の人達との意見交換をし情報を得たり、理美容師、かかりつけ医の往診、消防機関との連絡及び訓練により安心して暮らせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関および以前よりのかかりつけ医への受診を行っている。家族の同意の上で提携かかりつけ医に週1回の往診をして頂いている。	ホームに隣接する協力医療機関とは24時間連携がとれていて、緊急時には電話一本で夜中でも迅速に往診していただけることにより、家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を毎朝の申し送りにて看護師に報告・相談してその指示をもらって適切な健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へは必要な情報提供をしてスムーズな治療が行われるよう支援している。医師や看護師との譲歩交換ができるよう、定期的には面会に行きその都度相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の説明を行い施設で対応できる可能なケアについて十分な話し合いを持って施設の方針の同意を得ている。心身の状態変化など早急に対応できるよう家族・主治医にもその都度相談している。	看取りは行わない方針で、入居契約時本人と家族に説明している。重度化した場合は協力医療機関からの連携で、病院に入院するなどしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはマニュアルに基づいた対応ができるように、勉強会を行ったりして実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成しており、年2回火災を想定した避難訓練、消火訓練、地震や水害を想定した訓練も行っています。また火災報知機やスプリンクラーの設置も行っている。	運営推進会議での提案を受け、今年度スプリンクラーを設置した。また、洗面所乾燥機の漏電と震度3の地震発生を想定し、初期消火と消防署通報及び入居者の避難誘導をおこなった。	避難訓練の反省に、夜間帯での想定で訓練を試みてはどうかと記録されていますが、早い時期に実現することを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した対応には心がけているが、時には馴れ合いになりがちな場面もあると思う。日々声かけには十分注意していくよう努力していきたいと思えます。	職員は、利用者の言っていることを否定したり、行動を制止したり、禁止しないよう心がけている。また接遇についての研修をおこない、言葉使いや対応の仕方について勉強している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入居者の希望や思いを聞き出しできる限りその支援に努めている。ほとんどの人が意思を伝えることができるため、会話をする時間を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本的に決まっているが、入居者の心身の状況に応じた個別に支援も行っている。時には外出や帰省も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で着替えができる人は好みの服を自分で選んでもらっている。できない人はある程度は職員でコーディネートとしてその人らしさができるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には献立は食材をとっているが、日曜日のみ入所者の方と献立を考え、一緒に作るようにしている。	利用者は職員と一緒に敷地内の畑で大根、白菜、たまねぎなどの野菜を作り、一緒に調理している。天候の良い日はテーブルを戸外に出すなど工夫した食事もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回個人記録に記入している。水分量は食事以外におやつなどで一日の確保に努めている。食事の方は栄養士のもとでバランスの取れた献立づくりをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い自分でできる方にはしてもらい、介助の必要な方は支援している。現在殆ど毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの把握した上で声かけや介助を行っている。現在重度化になってきており3名の方はオシメ対応にしているが本人が訴える際はその都度介助している。	利用者個人のパターンを排泄チェック表で把握し、夜中も3時間ごとに確認してパット交換を行っている。日中はできるだけはくパンツを利用してトイレに誘導し、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握しできるだけ水分を取ってもらったり朝、牛乳やヨーグルトなどで対応している。入居者別に便秘の状態が違うので服薬によるコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決めてはいるが本人の希望によりその都度入浴できるようにしている。日中浴と夜間浴の二通りで行っており、週3回入れるようにしている。	ユニットで交互に昼と夜を入れ替え、一人ひとり入浴できるよう支援し、希望があれば毎日入浴してもらい、利用者には「家と同じ」と喜ばれている。入浴拒否がある場合には日時を替えたり声掛けをするスタッフを変える工夫をしている。またゆず湯などで季節を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活環境に合わせたペースで昼でも居室で休んでもらっている人もいる。夜間では眠れない人もいるが声かけしたりお茶接待をして安心して休んでもらえるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつケースに仕分けしケースの上に薬の処方、効能を記載し一目で分かるようにしている。入所者の状態変化の観察に努め変化のあった場合は申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯、居室の片付けなど入居者のできることは役割分担している。趣味のある方などはスタッフと一緒に楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のいい時は健康状態を見て散歩や買い物に出掛けている。また季節毎に行事を行っており花見や戸外でのレクリエーションを行うと共に、外での食事を楽しんでいる。	可能な限り日光を浴びようという方針で、天候のいいときは散歩に出掛けたり、ウッドデッキで日光浴をしながら話をしたりしている。家族の協力を得て、外出や外泊の支援も行い、年2回の外食や大名行列に出掛けたりドライブを楽しんだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設の方で預かっているが、自己管理できる人にはある程度自分で管理してもらっている。希望に応じて買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の支援をし、手紙などは何時でもお渡ししている。ただ現在手紙を書ける人がおらず、出す支援はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には名札と住所札を設置し、ホールには季節感のある壁画を作っている。イベント時の写真を貼って思い出づくりにも努力している。草花のある時期はテーブルに生花を生けて季節感を出している。	居間は天井が高く開放的な作りで、イベントもできるほど広い空間となっている。昨年リフォームされたりリビングから続くウッドデッキの真新しい木の香りの中で催し物やお茶を楽しむことができる。また生け花を、職員と利用者が一緒に活かせることで季節を感じとれるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは殆どの人は決まった席が落ち着くようである。少数の方はその日の心身の状況によって席を変えてその日の雰囲気でも過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の生活習慣に合わせ、使い慣れたタンスやテーブル、テレビなどを持ち込んでいただいている方もおられる。	ベッドや筆筒、その他の生活用品は使い慣れたものが持ち込まれ、各居室の入り口には名札と住所札が取り付けられている。室内には家族の写真などが飾られ、安心できる自分の居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどは名札を設置して分りやすくしている。入所者の歩く場所は、できるだけ障害物は置かないようにし、いつでも座れるように長いすを設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372800189		
法人名	有限会社 フォーユー		
事業所名	グループホーム さくらの家		
所在地	岡山県小田郡矢掛町矢掛2532-1		
自己評価作成日	平成22年2月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372800189&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年3月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議やユニット会議を定期的に行い、ミーティングの機会を設けることで、再確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夜市やスーパーなどへの買い物の際はスタッフとともに出掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問や町内行事への参加などで、交流する機会を持ち、地域の方々への理解を深めている。また町内の清掃活動にも参加する予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入所者の現状や事業所での取り組みについて報告し、そこで出た意見や要望をもとにスタッフ間で話し合い、サービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度は必ず介護保険課に連絡したり、書類を提出した時などに情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、定期的カンファレンスを行いスタッフ間での再確認や徹底を行っている。また勉強会を行い、正しい認識ができるようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、虐待が行われることのないよう日々努力している。また研修会の機会を設け理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修へ参加し制度に関する理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文面を読みながらわかりやすい説明を心がけ、理解していただけるよう努力している。不安や疑問点についても納得されるまで十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはスタッフから声かけを行い意見や要望などが言いやすい雰囲気作りを心がけている。要望にはその都度ミーティングで話し合い反映させるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションをはかり、ユニット会議や管理者会議などで意見や要望を聞き反映させるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な訪問や個別面談、ミーティングを行い職員の状況や実績の把握を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外への研修の機会を積極的に確保し、参加を促している。また資格取得にも力を入れ職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や町主催の研修会に参加し、他事業所との情報交換やネットワークづくりをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人から生活歴や家族状況を聞くなどし、本人が安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に十分な面接を行い、家族の不安や要望を理解できるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を確認、把握し、その人に合った必要なサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など一緒にできることはコミュニケーションをとりながら共に行い、お互いが良好な関係を保てるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはスタッフから声をかけ、自室で一緒にお茶を飲んでもらいながら、状況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方が面会に来られたり、家族の方と外出の機会をもつなど支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者の性格などを把握し、スタッフが間に入り席替えなどしながら孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、医療機関や他の施設へ面会に行ったり、家族からの相談にも随時応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の訴えはしっかり傾聴し、できるだけ意向にそうように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を聞き、スタッフ間で情報交換するなどし把握、共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態を生活記録やバイタルチェック表へ記載しスタッフ全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意見を参考に、スタッフの意見も聞きながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有ができるよう個人記録への記入や申し送りノートを活用し、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅療養管理指導の話をすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会に参加した役場の方や民生委員などと情報交換しながら利用者地域の中で安心して暮らしていけるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や以前からのかかりつけ医の受診は継続している。また家族の同意を得て提携しているかかりつけ医による週一回の往診もしていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を把握し、申し送りなどから何かあればすぐ看護師に報告、相談し指示をおおき健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へは必要な情報提供を行い、スムーズな治療が行われるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には十分な話し合いを行い、理解をしてもらっている。状態変化があった場合は、今後の方針についてその都度話し合いを行い対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはマニュアルにもとづいた対応ができるように勉強会を行ったりし、実践でいかせるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理委員を設置し消防計画を作成しており、火災や風水害を想定した避難訓練を年2回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや対応については注意しているつもりだが、十分にできていないように思う。今後も一人ひとりを尊重し、プライバシーの確保に努めていきたいと思う。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を聞きできる限りその支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、本人の心身の状況に合わせて個別支援ができるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回は訪問理美容や行事の際には化粧をして楽しんでもらうなどしている。着替えの際には本人の好みを重視しながら、更衣を手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には業者に委託しているが、週に1回はメニューと一緒に考え、作るようにしており、楽しみの一つとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の状態にあわせ、ブレンダー食等の提供なども行ったり、食事は毎回個人記録に記入し把握し、食事時以外にもこまめな水分摂取の声かけを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守りを行い口腔ケアを行っている。できない方についてはスタッフが介助し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけや介助を行っている。オムツ使用の方もおられるが、訴えがあればすぐ交換するよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、こまめな水分補給、牛乳やヨーグルトなどの乳製品を取り入れたりして食事内容の工夫をに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の希望により入浴できるようにもしている。夜間入浴も行っており、利用者には「家と同じ」と喜ばれている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ、昼寝やたたみコーナーで横になるなど自由に休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつのケースに仕分けし、ケースには処方薬、効能を記載して誰が見ても一目で分かるようにしている。状態に変化があった場合は、申し送りやノートを活用し確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お膳拭きや洗濯物たたみなど、日々の生活の中で役割を持って生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブなど外へ出る機会を設けたり、花見や夜市など季節ごとの行事への参加ができるよう計画をたてている。また家族の協力を得て外出や外泊の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で管理しているが、希望に応じて買い物の支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけて話をしてもらったり、手紙やはがきなどもいつでもやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には表札を設置している。ホールには季節ごとに壁画を飾ったり、イベントごとの写真を貼るなどしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは決まった席につく方もいるが、その日の心身の状態に席を変えたりし居場所の工夫ができるようにしている。また廊下に長いすを設置し、自由に休めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたテーブルや椅子、鏡台など持ち込んでいただき、本人が居心地よく落ち着いて過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には表札を設置し、見てわかる工夫をしている。環境整備に努め、障害物の除去など安全面の工夫をしている。		